

平成29年度 茨城大学教員免許状更新講習シラバス

【選択】新課題講習1

※この講習を受講する方は ハ-301 を受講することができません。

クラスCD	ハ-101	開講日	6月3日(土)
対象職種	教諭・養護教諭・栄養教諭		
講習科目名	学校臨床心理学	講習の形態	講義・演習
担当講師名(ふりがな)	金丸 隆太(かねまる りゅうた) 守屋 英子(もりや えいこ)	所属	大学院教育学研究科
主な受講対象者	全教員	担当時間	6
講習内容	1)不登校, いじめ, 発達障害, 児童虐待など, 学校園での今日的課題に対応するために, 臨床心理学ではどのように考え, 実践するかをチーム学校の視点から学ぶ。 2)仮想事例を用い, 園児・児童・生徒や保護者に関わる方法を演習する。 3)臨床心理学の中から特に表現療法に焦点を当てる。 4)絵画療法について演習も取り入れて体験的に学ぶ		
到達目標	1)教育現場で応用できる臨床心理学の考え方を身につける。 2)特に教育相談の領域で実践可能な技法を知る。		
受講者への 事前連絡事項	・お手持ちの彩色用具(クレヨン・クーピー・色鉛筆など)を持参して下さい。 (こちらでもある程度用意しますので、無い場合には購入する必要はありません。)		
成績評価の方法	筆記試験	認定試験に関して	講習で使用した資料やノートなどの持ち込みを可とする。

【選択】新課題講習4

※この講習を受講する方は ハ-204、ハ-304 を受講することができません。

クラスCD	ハ-104	開講日	6月3日(土)AM
対象職種	教諭・養護教諭・栄養教諭		
講習科目名	発達障害児への支援に関わる最近の動向	講習の形態	講義
担当講師名(ふりがな)	勝二 博亮(しょうじ ひろあき)	所属	教育学部
主な受講対象者	全教員	担当時間	3
講習内容	通常の学級に在籍する発達障害児への支援が注目されているが、この講義では発達障害児の中でも主に学習障害(LD)と注意欠如多動性障害(ADHD)に関して、脳科学的知見も紹介しながら、具体的な発達障害児への支援方法について論じていく。		
到達目標	科学的な視点から子どもを捉えなおすことで、新たな見方で子どもを理解しようとすることができる。		
受講者への事前連絡事項	適宜プリントを配布する。		
成績評価の方法	筆記試験	認定試験に関して	講習で使用した資料やノートなどの持ち込みを可とする。

クラスCD	ハ-104	開講日	6月3日(土)PM
対象職種	教諭・養護教諭・栄養教諭		

講習科目名	発達障害児への支援に関わる最近の動向	講習の形態	講義
担当講師名(ふりがな)	東條 吉邦(とうじょう よしくに)	所属	教育学部
主な受講対象者	全教員	担当時間	3
講習内容	<p>発達障害に関する最近の動向について概説し、発達障害の概念と支援の基本について説明する。特に自閉症・アスペルガー症候群等の広汎性発達障害(自閉スペクトラム症)を中心に論じる。</p> <p>1)発達障害及び特別支援教育に関連する我が国の近年の施策動向について概説する。</p> <p>2)生物-心理-社会(bio-psycho-social)統合モデルから発達障害の概念を説明する。</p> <p>3)自閉症、アスペルガー症候群等の広汎性発達障害(自閉スペクトラム症)について概説する。</p> <p>4)限局性学習症(SLD)、注意欠如・多動症(ADHD)等について概説する。</p> <p>5)当事者視点からの支援について概説する。</p> <p>6)発達障害(特に自閉スペクトラム症)の支援の基本、症状の改善・軽減や予防の可能性について概説する。</p> <p>7)認定試験を実施する。</p>		
到達目標	<p>1)発達障害の概念について適切に理解できる。</p> <p>2)発達障害(特に自閉スペクトラム症)の支援の基本的事項について説明できる。</p> <p>3)特別支援教育に関する施策の動向について説明できる。</p>		
受講者への事前連絡事項	適宜プリントを配布する。		
成績評価の方法	筆記試験	認定試験の方法	講習で使用した資料やノートなどの持ち込みを可とする。

【選択】新課題講習5

※この講習を受講する方は ハー405 を受講することができません。

クラスCD	ハー105	開講日	6月3日(土)
対象職種	教諭・養護教諭・栄養教諭		
講習科目名	現代子ども論	講習の形態	講義
担当講師名(ふりがな)	生越 達(おごせ とおる)	所属	大学院教育学研究科
主な受講対象者	全教員	担当時間	6
講習内容	<p>『現代子ども論Ⅰ～現代社会と心の育ち』では、なぜ現代の子どもたちが変わったように見えるのか、社会の変化を理解することを通して、子どもたちの問題行動のなかに隠された意味を考えていきたい。『現代子ども論Ⅱ～子どもたちをどう理解するか』では、子どもたちをどのように理解したらよいのか、具体的な事例を取り上げながら考える。子どもや保護者と向き合う際の態度やスタイルを形成することを目指す。</p> <p>(1) 教師にとっての共感性とは何か：社会化と共感の狭間を生きる教師  (2) 近代社会を支えてきた教師から自由になれるか  (3) 存在の不安を抱える子どもたち：教師批判やリストカットから見える子どもの自己  (4) 子ども理解のスタイルを学ぶ：子どもを理解する際の盲点について知る  (5) 他者とかかわることが不安な子どもたち：傷つきやすい子どもたち  (6) 現代のいじめの特徴：いじめの背後にある同調性  (7) 自己形成の困難な子どもたち：子どもたちの関係確認と多元的自己  (8) 保護者理解の難しさ  (9) 認定試験：講義した内容を確認する。</p>		
到達目標	<p>(1) 近代社会を支えてきた教師の役割を知ると同時に、その役割を相対化する眼差しを身につける。  (2) 子どもたちの問題行動の裏側に隠された意味を知り、またその意味を捉える子ども理解のスタイルを身につける。  (3) 子どもたちの具体的な行動を理解できるようになる。  (4) 事例を理解することにより、子どもたちや保護者と向き合う態度やスタイルを形成する。</p>		
受講者への事前連絡事項	適宜プリントを配布します。一部演習方式の授業を含みます。		
成績評価の方法	筆記試験	認定試験に関して	講習で使用した資料やノートなどの持ち込みを可とする。

【選択】新課題講習7

※この講習を受講する方は ハ-308 を受講することができません。

クラスCD	ハ-107	開講日	6月3日(土)AM
対象職種	教諭・養護教諭		
講習科目名	ライフステージ別生涯スポーツの理論と実際	講習の形態	講義
担当講師名(ふりがな)	日下 裕弘 (くさか ゆうこう)	所属	教育学部
主な受講対象者	小・中・高教諭(保健・保健体育)・養護教諭	担当時間	3
講習内容	・我が国のスポーツ政策の中心概念である「生涯スポーツ」の理論とその実際について、ライフステージ別に紹介する。本講習では特に、幼少年期の「遊び」と青年期の「スポーツ」、および青少年の「体験活動」に焦点を当てる。		
到達目標	子ども(幼・小・中・高)の「遊び」「スポーツ」「体験活動」の教育的意義について理解する。		
受講者への事前連絡事項	特になし		
成績評価の方法	筆記試験	認定試験に関して	講習で使用した資料やノートなどの持ち込みを可とする。

クラスCD	ハ-107	開講日	6月3日(土)PM
対象職種	教諭・養護教諭		
講習科目名	子どもの体カトレーニング	講習の形態	講義
担当講師名(ふりがな)	渡邊 将司 (わたなべ まさし)	所属	教育学部
主な受講対象者	小・中・高教諭(保健・保健体育)・養護教諭	担当時間	3
講習内容	小学生から中学生にかけては様々な運動を習得するとともに、スポーツパフォーマンス向上を目指してトレーニングが本格化する時期でもある。体育の授業だけでなく、業間体育、さらには運動部活動ではさまざまな体カトレーニングが実施されているが、何をどの程度やるのが望ましいのかわからないまま実施されているケースが多い。ここでは、小学生から中学生期を中心に、からだの成長や体力の発達パターンとともに、筋力、持久力などの体カトレーニングの効果について講義する。		
到達目標	①からだの成長および体力の発達パターンを理解できる。②体カトレーニングの効果を理解し、現場に応用できる。		
受講者への事前連絡事項	特になし		
成績評価の方法	筆記試験	認定試験に関して	講習で使用した資料やノートなどの持ち込みを可とする。

【選択】新課題講習9

※この講習を受講する方は ハ-309 を受講することができません。

クラスCD	ハ-109	開講日	6月3日(土)
対象職種	教諭・養護教諭・栄養教諭		
講習科目名	身体コミュニケーション&コーチング	講習の形態	講義・演習
担当講師名(ふりがな)	加藤 敏弘(かとう としひろ)	所属	人文社会科学部
主な受講対象者	全教員	担当時間	6
講習内容	<p>児童生徒の心身の発達や人間形成上の課題を踏まえた上で、次の2点を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの媒体として身体を持つ意味を非言語コミュニケーションを理解することから考え、子どもたちとのふれあいをさまざまなワークを通して見つめ直す。</li> <li>・企業や教育現場などさまざまな場面で活用されているコーチングの基本を学び、各種ワークシートを用いて学校現場でのコーチングを考える。</li> </ul>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの媒体としての身体についての理解を深め、自己の身体を内観し、他者との向き合い方を理解し、子どもたちとのふれあいを見つめ直すことができる。</li> <li>・コーチングの歴史と基本的な考え方を理解し、学校現場でのコーチングについて具体的な方策を考案することができる。</li> </ul>		
受講者への事前連絡事項	子どもたちとの関係性を身体的な側面から観察しておいて下さい。		
成績評価の方法	筆記試験	認定試験に関して	講習で使用した資料やノートなどの持ち込みを可とする。